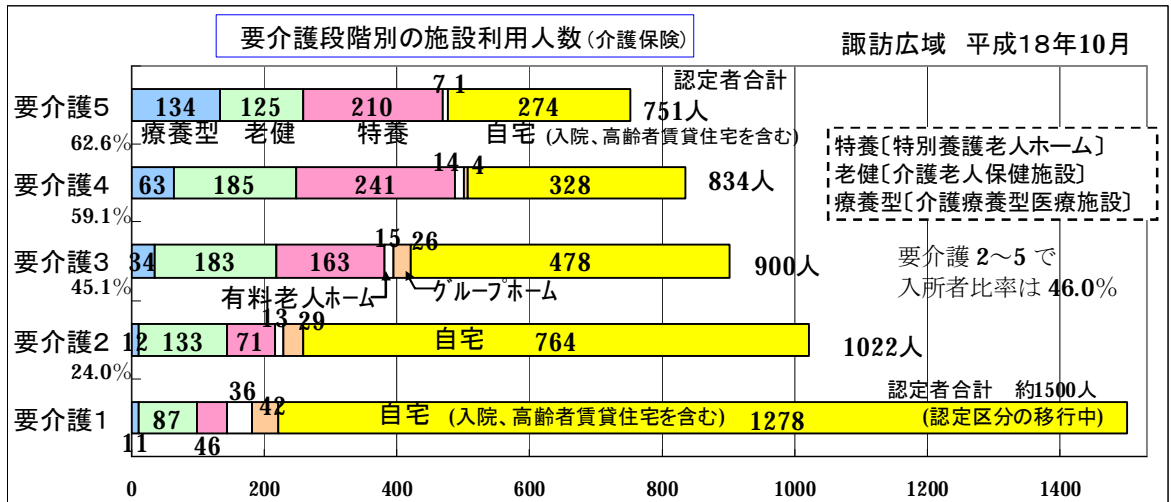


1. 要介護度が重くなると居宅介護が困難になり、入所施設利用者が多くなる

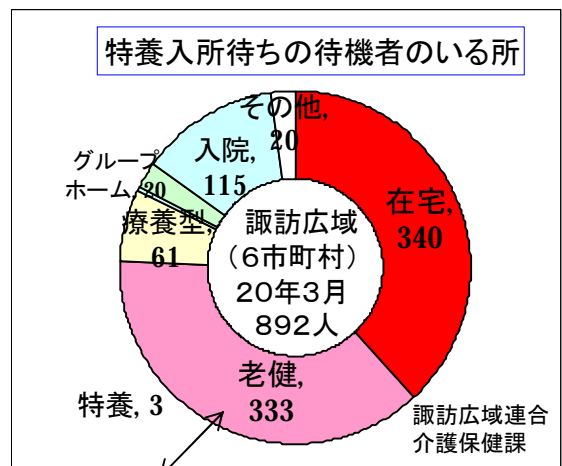


2. 終身利用可能な「特養」には、利用したくも入所出来ない入所待ち待機者が増え続けている

特養入所待ちの待機者数の推移

特養	待機者人数	内訳	
		在宅から	老健等の施設から
18年4月	720	320	400
19年4月	792	287	505
19年9月	833	**	**
20年3月	892	340	552
20年9月	972	**	**

資料) 諏訪広域連合介護保険課



- 補1 20年10月現在の施設定員: 特養 796人、老健 771人、療養型 180人 (諏訪広域6市町村) 認知症対応型共同生活介護(グループホーム) 144人 計 1,891人
- 補2 施設の利用者負担が高額になるなか、低所得者にとって特養は減免措置がうけて入所できる施設
- 補3 国の施設整備目標は、平成26年時点で要介護2~5の認定者の37%。現状は約45%

3. 後期高齢者数の増加で、心身の衰えが進んだ「介護保険要介護認定の重度者」は増加し続ける

